

すずなり

株式会社鈴生（静岡県）

JGAP 2019年取得（レタス、えだまめ、ブロッコリー、はくさい、サンチュ、みずな等 21品目）

所在地：静岡県静岡市葵区下1108-8

面積：161ha（構成農場全体の面積）

応募区分：団体の部

構成農場：15農場（すずなりグループが7農場）

栽培品目：レタス、えだまめ、ブロッコリー、はくさい、サンチュ、みずな等 21品目



近隣の農業者も交えたJGAP勉強会

▼GAPに取り組んだきっかけ

- （株）鈴生は、2008年に創業し、契約加工業務用野菜の生産・販売を実施。自社で生産した野菜の安全を担保するため、第三者認証の必要性を感じ、2008年にJGAP個別認証を取得。2019年には自らが団体事務局を担い、グループ会社や地域の農業者とともにJGAP団体認証を取得。

▼生産工程管理の改善に向けた継続的な取組

- 団体事務局が毎月発行しているNEWS LETTERで、事故件数や事故写真等を共有。農場ごとに事故ゼロ日数をカウントすることで、作業員へ労働安全の意識付けを行う。

⇒事故件数が約5割減少

- スマホ・パソコンから入力できる自社開発システムを構築し情報共有ができるように改善。

⇒県内外の生産者とも連携して生産計画、出荷管理が可能に。

▼経営の改善に向けた取組とその効果

- 若手社員の成長や雇用定着を目指し、月に1回社長と若手社員での勉強会や、人事評価の見える化を実施。

⇒離職率が大幅に低下

- 独自の栽培管理システムを活用し、出荷物に二次元コードを添付して取引先に専用IDとパスワードを付与することで、取引先が直接栽培情報を確認可能に。輸出品にも二次元コードを導入し、現地の言語でも栽培情報が確認できるよう、システムの改良を進める。

- 農業者としては初の温室効果ガスの計測を実施し、削減目標を定めながら削減に取り組んだり、「見える化」ラベルの表示を実施したりと環境負荷低減にも積極的に取り組む。

⇒「見える化」ラベル★3つを添付したレタスは価格が約5円/個上昇。

▼波及効果

- 地域の農業者を巻き込んでGAPに取り組み、団体認証を取得し着実に構成農場を増やしている。

⇒2019年11農場→2023年15農場

- 農業者をはじめとして学生や行政等を対象に、事業の参考や知識の向上につながるような視察会や講演を年間30回以上開催。



団体事務局が毎月発行しているNEWS LETTER



二次元コードを読み込み、栽培情報を確認

